

学生による学生のための地域企業情報発信プロジェクト

WISE2019

Work-style Information by Student's Eye



取材&編集 参加学生募集

学生による学生のための 地域就職情報誌&WEBを作ろう!

仙台圏をアツくするプロジェクトが今年も始まります。
地元学生が地元中小企業取材し、
学生目線で情報誌&WEBサイトを作る「WISE」です。
地元中小企業の多くは魅力的な事業を行いながらも、
知名度や発信力の不足で、その情報が学生にまで届いていません。
学生も名の通った大手や首都圏の企業に目が向きがちです。
WISEはそんな地元学生と地元中小企業が出会い、
一緒に課題に向き合うプロジェクト。
自分を高めながら地域の役に立ちたい学生の参加を待っています。

進路選択にプラス！ 就職活にプラス！



申込み方法

ホームページからのエントリーまたはEメールFAXでお申込みください。

ホームページ <http://www.wise-sendai.jp/>

Eメール wise-info@wise-sendai.jp

FAX 022-288-7600



申込み〆切

6月7日(金)

①名前 ②電話番号 ③Eメールアドレス④所属(学校名・学部・学年)をお知らせ下さい。

※個人情報の取り扱いについて 本申込でお伺いする個人情報は、出席者名簿の作成、イベントに関する諸連絡事項が発生した場合、参加者へのご連絡に利用します。ご提供いただいた個人情報は原則として上記目的のみに使用し、他の目的に使用しません。他の目的に利用する際は、改めてその使用目的を連絡いたします。

お問い合わせ 仙台・地域人材定着推進実行委員会事務局 Fax. 022-288-7600 E-mail. wise-info@wise-sendai.jp 担当/坂上

主催：仙台・地域人材定着推進実行委員会(仙台市、河北新報社、地域協働教育推進機構、仙台印刷工業団地協同組合、地域人材コーディネート機関 みやぎ事務局)

WISEからの提案

「ジモト就職を切り拓け！」

学生の皆さんへ

WISEの情報はWEB版と冊子版の2種類。読めば、大手就職情報サイトには載っていないようなキラリと光る地元企業と出会えます。WEBは右のURL・QRコードから。冊子は各大学の就職課などで手に入ります。

WISEの学生記者となって、自ら地元企業を取材し、記事にまとめる体験をするのも大きな学びにつながります。やってみよう学生は説明会に参加し、学生記者経験者の話を聞いたり、活動内容を確認したりしてください。

情報はWEB版と冊子版の2種類で発信されます。



冊子版

27~30年度版は既刊
大学の就職課等で手に入ります。



WEB版

<http://wise-sendai.jp>



「学生記者」活動の大まかな流れ

取材経験がなくても、記事を書いた経験がなくても大丈夫。実行委員会のスタッフが手厚くサポートします。取材と記事執筆をとおして、経験を積み重ねればコミュニケーション力が見るみるアップ！ 地元企業と出会えるだけでなく、就活を勝ち抜く力も培えます。

説明会・講習会



活動内容や進め方について事前に
レクチャーを受けます。

下調べ・取材準備



HPや文献から企業・業界の下調べ
を行います。

取材交渉・日程調整



電話で依頼内容を伝え、取材の
交渉・日程調整を行います。

校正確認



Eメールを用いて、企業からOKが
出るまで原稿チェックと手直しを
繰り返します。

執筆



取材内容や資料を基に原稿を執筆
します。

取材



企業を訪問し、インタビューと写真
撮影を行います。

学生記者の声



東北福祉大学 健康科学部 3年
菅野綾香

私は今年 WISEの活動を行なって、本当に良かったと思います。仕事について、こんなに深くお話を聞ける機会はなかなかありません。職種への興味の有無に関わらず、社会人のお話を聞くことはよい経験だと思います。

私は2社の取材に伺わせていただきましたが、とても楽しかったです。そして、勉強になりました。会社の良い点、課題、聞いているだけでワクワクしましたし、働いてみたいと思いました。社会人に対する像が具体的にになり、目指す職も決まりました。自分の世界が広がったような気がしました。また、学生記者としての活動ではありますが、社会人を相手にするので、相応の対応と責任が必要になります。その点でも非常に勉強になりました。



東北大学 文学部 3年
菅野雄哉

昨年もWISEに参加して、今年は2年目でした。去年取材を1社経験して、上手くいったつもりでしたが、いざ社長と対面すると緊張してしまい、覚えたはずの名刺交換が上手くできなかったり、質問におかしな敬語が混ざったりと、小さな失敗の連続でした。今振り返ると、「もっと上手にできたのではないか」とか、「不愉快な思いをさせてしまったのではないだろうか」と心苦しくなります。さらに、文章を書くというのは予想以上に難しいものでした。適切な表現が思いつかない、つながりが悪い、ネタが足りず文字数を満たせない、などと苦しい思いをしてばかりだったからです。語彙の貧しさ、取材の力量不足を痛切に実感するとともに、物事は何度も経験してこそ上手になれるのだ、と気づきました。

保護者の皆さんへ

アポ、取材、記事執筆…。学生記者の経験は、若者を大きく成長させます。我が子の就活力を高めたいと思ったら、ぜひ学生記者への挑戦をお勧めください。